

授業資料リスト管理システム Legantoの導入から展開へ

とも の し ほ
友野 詩穂

(三田メディアセンター主任)

1 はじめに

慶應義塾大学では、2021年からEx Libris社製の授業資料リスト管理システムLeganto¹⁾を導入した。2020年に始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的拡大により、大学においてはキャンパスが閉鎖される事態となった。授業の形態も従来の対面授業からオンライン授業へと、にわかには転換の必要に迫られた。そういった状況も踏まえ、オンライン授業充実の一つの手段としても期待し導入されたLegantoだが、今後教員と学生にどう利用してもらうか、図書館スタッフがどうサポートしていくかは、まだ試行錯誤しているところである。本稿では、Leganto導入の経緯やこれまでの取り組みを紹介する。

2 Leganto

Legantoはオンライン・リーディングリスト・システムのひとつであり、教員が授業で使う資料リストを管理するためのツールである。慶應のメディアセンターが採用している図書館システム(Alma, PrimoVE)と連携して利用することが可能である。Leganto自体はデータベースを持たず、設定やデータは全てAlmaに格納されるシステムになっている。そのため教員による「リストに資料を追加する」「リ

ストを編集する」「タグをつける」といったアクティビティや、学生による「資料にアクセスする」「コメントをする」といったアクティビティは、全てAlmaに反映される。またPrimoVEとの連携により、検索結果にLegantoの登録資料が含まれる場合、「授業資料」アイコンが表示される仕組みになっている。書誌情報を開くと、該当資料を授業資料に設定している科目名を確認することができる²⁾。

LegantoはCanvas LMSやBlackboard等のラーニング・マネジメント・システムと連携することができる。慶應で使用しているCanvas LMS³⁾とはLTI(Learning Tools Interoperability)という標準的なプロトコルで連携している⁴⁾。そのため教員や学生は、一度Canvas LMSにログインすればそのままシームレスにLegantoにアクセスすることができる。

Legantoは2022年7月現在、全世界で275の機関が導入している世界的に大きなシェアを持つシステムではあるが、そもそも日本での導入は初めてであった。そのため導入時には、UI(ユーザーインターフェース)の日本語の調整や、設定の検証など数多くの課題があったが、後述のLeganto構築WG(ワーキンググループ)により短期間での検証・準備作業が実現した。



図1 Legantoの画面

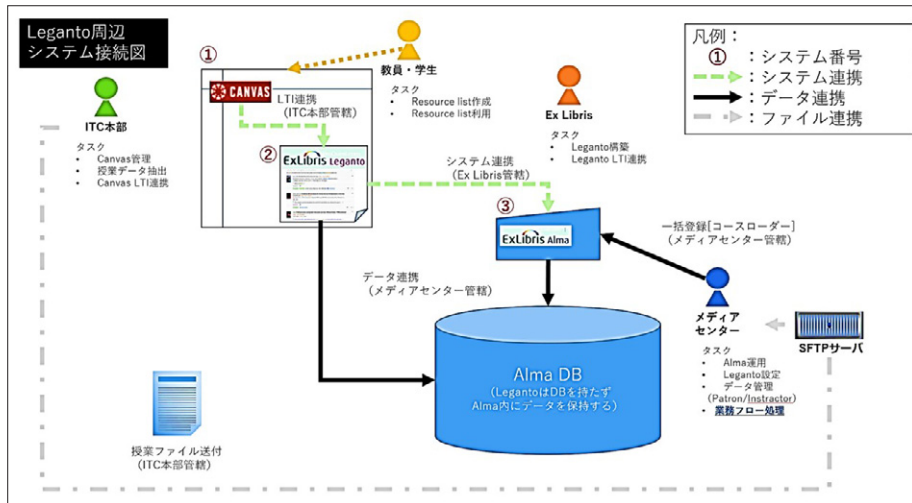


図2 Leganto周辺システム接続図

3 導入に至るまでの経緯

冒頭で述べたように、コロナ禍によるオンライン授業への支援の必要性が急増したことが、Leganto導入検討の契機となった。2020年4月～5月の約2か月にわたって、メディアセンターは臨時休館し、利用者は来館することが全くできなかった⁵⁾。そのような状況で、教員・学生ともに教育・学習活動に相当の困難が伴ったであろうことは想像に難くない。メディアセンターでも貸出資料の郵送といった新たなサービスも行ったが、元々慶應の「指定資料（リザーブブック）」制度は欧米の大学図書館のように受講者数に対して十分な数の複本を所蔵する制度ではなく、さらに貸出不可もしくは短期間貸出の規則で運用しているため、紙媒体資料中心のサービスだけでは支援に限界があった。

加えて、利用者の行動も変容しつつある。これまでメディアセンターでは情報発信のためにWebサイトを整備し、KOSMOSを通して資料へのスムーズなアクセスを提供するといった取り組みを行ってきた。しかし、この情報があふれる現代においては、そのような（あえて否定的に言えば）受け身の取り組みでは、なかなか利用者にはリーチできない。そのためメインストリームに乗って利用者が必要としているサービスを届ける、という姿勢がちょうど求められていた、とも言えるであろう。

もとより、学内の情報基盤を管理するインフォメーションテクノロジーセンター本部（以下「ITC本部」とする）でもセキュリティ上の懸念やシステムの老朽化等から、従来の「授業支援システム」か

ら「Canvas LMS」への移行を促進したいという意向があった。そういったメディアセンター側の狙いとITC本部側の考えが合致した結果、2021年7月にITC本部とEx Libris社の間でLegantoの導入契約が締結された。契約の主体こそITC本部だったが、「慶應における学習・教育活動を支援する」という共通の目標のもと、双方で協力して運用を行うということで導入プロジェクトは始まった。

2019年に図書館システムをAlmaへ移行した際には、1年5か月の導入準備作業期間があった⁶⁾。しかしCanvas LMSとLegantoは先述のLTI連携をすると、直ちに利用者からも使えてしまう仕組みになっており、テスト環境の下での入念な準備期間を設けることができず、迫る2021年秋学期中の運用開始に向けて、急ピッチでの準備を進めることになった。そのための準備体制として、メディアセンター本部スタッフ（システム担当・総務担当・リソースマネジメント担当）と三田メディアセンタースタッフ（選書担当・レファレンス担当・閲覧担当）からなる「Leganto構築WG」が8月に発足した（筆者もWGメンバーの一員である）。週に1度、Ex Libris社・ITC本部とのプロジェクトミーティングとLeganto構築WG内のミーティングをそれぞれ行い、導入プロジェクトを進めていった。

Leganto構築WG始動後、メンバーはLegantoのマニュアルを読解し、まずは機能面の把握に努めた。ただ、Canvas LMSは成績管理等にも使用されるシステムであるため、職員には基本的にアカウントが発行されておらず、直接検証することができなかつ

た。そのためメディアセンター所長を含む、三田キャンパス所属の6名の教員にご協力をお願いし、9月から10月にかけてパイロット運用を行った。試したかったのは、教員が三田キャンパスで開講している授業からいくつか選択し、授業で使われる資料等を実際にLegantoに登録し、授業を履修している学生に公開する、といった一連の流れである。ご協力いただいた教員からは「直感的に操作できるシステムだが、マニュアルにこの部分をもう少し詳細に記述してほしい」といった具体的なフィードバックのコメントも寄せられた。このパイロット運用によって、「利用者がどのような経路でCanvas LMSからLegantoへアクセスするのか」、「メディアセンター側の業務フローをどのように設計し、各担当でどのような処理を行えばよいのか」、「利用者向けのマニュアルをどのように準備すればよいか」といった点において理解を深めることができた。

パイロット運用の結果を踏まえ、想定外の利用方法への対処の検討や、ITC本部から提供された授業データのシステム連携設定など、運用開始へ向けた準備を進めた。三田メディアセンターではちょうど2021年7月からAlmaのCourse Reserve機能⁷⁾の利用を開始しており、既に指定資料（リザーブブック）制度を利用していた授業については、Alma内のみ一括登録でリストが作成されている状態だったため、それをLegantoからも利用できるように紐づける作業も行った。またそれと並行し、プロジェクトミーティングではEx Libris社にシステムの仕様を確かめ、Legantoを日本で利用する際に必須となる機能の開発や日本語表記の改善についてリクエストを出した。

Legantoには元々、多種多様な機能が備わっているため、その機能も検討の上で取捨選択した。例えば教員が各資料に様々なタグを付与することで、メディアセンターや学生にその資料の意味づけを示すことができるが、まずは「購入希望」と「指定資料」を示す2つのタグを用意して運用を始めることにした。また利用者向けのマニュアルについても、全キャンパスの統一ガイドを用意するか、各キャンパスで個別に用意するかをWGで思案した。授業はキャンパスをまたいでの実施・受講も多々あることを考慮すると、キャンパスごとのガイドを利用者側に把握してもらうのは難しく、全キャンパスで統一したガ

イドを教員向けと学生向けの2種類準備することになった。システムの名称については「Reading Lists (Leganto)」にした方が、聞きなじみがあって良いのではないかと考えた案もあったが、「図書館がこれまで主として扱ってきた図書や雑誌論文等の資料の枠を超えて、例えばYouTube等の動画やWebサイトといった多様なリソースを管理できるシステムである」ということを表現した名称として「Resource Lists (Leganto)」を採用した。



図3 Resource Lists (Leganto) : 教員向けガイド⁸⁾

2021年11月1日に、三田キャンパス開講授業での本番運用を開始した。2021年度の秋学期授業開始は10月1日だったため、そこから1か月遅れたが、何はともあれ学期中に運用をスタートすることができて胸を撫で下ろす思いであった。この時点でEx Libris社・ITC本部との導入プロジェクトの段階は終了し、続けて三田以外のキャンパスでの運用開始に向けて更に準備を進めることになった⁹⁾。各キャンパス向けにWGメンバーによる説明会を開催し、キャンパスごとにワークフローの検討と体制整備を依頼し、12月20日から総合政策学部、環境情報学部、政策・メディア研究科を除く全キャンパスでの運用を開始した。利用者が本格的に利用し始めるのは2022年度の春学期からであると想定されたため、必要に応じて各キャンパスから2022年度春学期開講授業用のリストを提出してもらいWGで一括登録するなど、運用開始後も作業は続いた。

4 導入後の状況

運用開始が2021年度秋学期の途中になってしまったこともあり、当初はあまり多くの教員・学生に使われているわけではなかったが、2022年度春学期からは徐々に利用率が上昇しつつある。2022年4

月からのメディアセンター内の体制は、WGの名称を「Leganto構築WG」から「Leganto運用WG」に移行し、各キャンパスのメディアセンタースタッフとメディアセンター本部システム担当がメンバーとなって、日々発生する問題についての対応を引き続き行っている。今後、既存のシラバスシステムの教科書・参考書リストで問題となっていた「記載されている書誌事項が正確でない」「絶版・未刊の資料が掲載されている」といった不備を、このLegantoが補完する面もあることの周知が進み、さらなる利用拡大につながることを願っている。また、Legantoのリストは一度作成してしまえば次学期・次年度にロールオーバー（繰り越し）して使うことができる。最初こそ教員にとってはハードルが高いシステムかもしれないが、毎年の授業準備にかかる手間を減らすことができるメリットを知ってもらえれば、利用が広がっていくのではないだろうか。

5 今後の課題

Leganto構築WG発足当初から一番大きな課題として認識されていたのは、既存のシラバスシステムとの連携である。現状では、教員がシラバスシステム用の教科書・参考書リストとLegantoのリストをそれぞれ別々に作成する必要があるが、その負担を減らすべく、今後は学生部との協働の可能性を探っていききたい。メディアセンター側としてもシラバスの教科書・参考リストを全件調査して、所蔵がなければ発注する既存の業務に、Leganto由来の購入希望対応が増えることになるので、直接の連携は難しくても、例えばシラバスシステム用のデータをそのままLegantoにインポートして登録できるように、データの仕様・項目等をすり合わせることから始められたらと考えている。

またLegantoはCanvas LMSと連携して利用するシステムであるため、そもそものCanvas LMSの利用率が上がらないと、Legantoだけの機能向上に取り組んでも徒労である。Legantoは他のラーニング・マネジメント・システムとも連携可能なシステムではあるが、まずはITC本部によるCanvas LMSの使いやすさ向上のための取り組みに期待したい。

メディアセンターとしては、今後Legantoの対応をしていく中で、どの教員がどのような授業を展開していて、どういった資料を使っているのかという

ことを、より密接に双方向的に把握できるようになれば理想的である。今回のLeganto導入を通して、全学的な学習・教育支援充実へ、まずは第一歩を踏み出した段階である。まだ様々な困難や課題がありなかなか一朝一夕での解決が難しいものもあるが、部署間での連携も取りつつ、引き続き歩みを進めていきたい。

参考文献・注

- 1) Ex Libris. “Leganto Course Resource List Management”.
<https://exlibrisgroup.com/ja/leganto/>,
(accessed 2022-07-08).
- 2) 慶應義塾大学メディアセンター. “参考：KOSMOSとの連携機能 - Resource Lists (Leganto) : 教員向けガイド”.
<https://libguides.lib.keio.ac.jp/c.php?g=946011&p=6857992>, (参照 2022-08-29).
- 3) 慶應では名称を「K-LMS (Canvas LMS)」としている。
- 4) 赤堀光希, 今堀隆三郎. 新型コロナウイルス (COVID-19) 禍における授業形態の変容と新たなLMSの導入推進と今後の課題. 塾監局紀要. 2021, no. 36, p. 82-86.
- 5) 信濃町メディアセンターは他キャンパスのメディアセンターより早く5月11日より開館を再開した。
- 6) 五十嵐健一. 早慶図書館共同運用システム導入プロジェクトの記録—導入プロジェクトとKOSMOSIVの概説—. MediaNet. 2020, no. 27, p. 8-13.
- 7) Ex Libris. “Course Reserves”.
https://knowledge.exlibrisgroup.com/Alma/Product_Materials/050Alma_FAQs/Fulfillment/Course_Reserves,
(accessed 2022-08-29).
- 8) 慶應義塾大学メディアセンター. “Resource Lists (Leganto) : 教員向けガイド”.
https://libguides.lib.keio.ac.jp/leganto_instructors,
(参照 2022-07-27).
- 9) 湘南藤沢キャンパスでも他キャンパスと同製品のCanvas LMSを導入しているが、こちらはキャンパス独自に運用しており、名称も「SOL (SFC Online Learning System)」と異なる (総合政策学部, 環境情報学部, 政策・メディア研究科で使用)。そのため現時点ではLegantoとの連携の目処は立っていない。